

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>○志を持ち、根気強く学び続ける生徒 ○他者の人格を認め、共に支え合い、協力できる生徒 ○あいさつと清掃ができる生徒</p>	<p>今年度の指導の重点</p> <p>『鍛える』『考える』『つながる』</p> <ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と学び合いによる学力向上 規範意識の向上と道徳心の育成 生徒会活動の活性化による主体性の育成 個別の課題にあった支援の充実 保護者・地域との連携の推進
--	---

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>(全国) ○国語(A、B)・数学(A、B)ともに、基礎・活用の正答率が県平均より低い。 ○国語Aの「書くこと」領域については、県平均に近いが、「読むこと」領域では、文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつことに課題がある。 「文章について説明したものとして適切なものを選択する」：本校53.5%(県72.0%) ○国語Bの「話すこと・聞くこと」領域については、相手の反応を踏まえながら、相手に分かりやすく伝えるように工夫して話すことに課題がある。 「スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す」：本校41.3%(県57.4%) ○数学Aの「数と式」領域については、四則計算や方程式を解くことに課題がある。 「簡単な連立二元一次方程式を解く」：本校36.1%(県62.5%) ○数学Bの「関数」領域については、解釈し的確に処理することに課題がある。 「aの変域に対応するbの変域を求める」：本校19.4%(県38.7%)</p> <p>(県) ○国語(1、2年)、数学(1、2年)、英語(2年)ともに、基礎・活用の正答率が県平均より低い。 ○数学については、基礎的な問題では正答率は7割以上だが、難易度が上がるに従い県平均との差が大きく、「数量関係」「図形」領域に課題がある。 ○国語については、「漢字の読み取り」の設問では正答率は県平均より高いが、「話すこと・聞くこと」領域では記述に関する問題の正答率が県平均より低い。また、1年では「読むこと」領域の正答率が県平均より高く、2年では「書くこと」領域の正答率が県平均より低い。 ○英語については、「聞くこと」「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の設問では県平均との差が大きい。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○「朝食をきちんと食べる」の割合が県平均より低いが、「朝自分で起きている」「夕食はきちんと食べる」「夕食を家族と一緒に食べる」の割合が、県平均より高い。 ○「地域の行事へ参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」等の家庭・地域とのつながりに関する割合が県平均より高い。 ○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」：本校38.9%(県33.2%) ○「自分のことが好きである」「自分は友だちや家の人、先生から認められている」の割合が県平均より低く、特に「自分には、よいところがある」の割合が県平均より低い。 「自分には、よいところがある」：本校52.8%(県72.7%) ○「勉強が大切だ、わかる、好きだ、できるようにしたい、将来役に立つと感じている」の割合が県平均より低い。 ○「自分の考えを説明したり文章に書いたりするのが難しいと感じている」の割合が県平均より高い。 ○「学校の宿題をしている」「自分で計画的に勉強できている」「家の人から言われなくても進んで勉強している」の割合が県平均より低い。 ○「平日1時間以上勉強する」「休日に1時間以上勉強する」の割合が県平均より低く、全くしない割合が高い。 ○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、全く勉強しない」：本校25.0%(県13.2%) ○テレビ・ゲーム・メール等の項目で「1時間以上する」の割合が、県平均より高い。 ○「自分で時間を決めてテレビや遊びを自己管理している」の割合が、県平均より低い。 ○「1日30分以上の読書をする」の割合は県平均より高いが、「読書を全くしない」の割合も県平均より高い。 ○「先生・近所の人・家の人いずれに対してもあいさつができていない」の割合が、県平均より低い。 ○「人が困っているときは、進んで助ける」「ボランティア活動に参加したことがある」「人の役に立つ人間になりたい」の割合が県平均より低い。</p>
--	--

成果

○「西中タイム」の活用などにより、基礎的な計算については県平均との差が小さくなった。
○授業規律の向上により、落ち着いた学習環境が保てるようになった。
○「全校統一テスト」を実施し、基礎・基本的な内容の定着を図った。
○ICT機器などの視覚教材を活用し、わかりやすく興味を持たせる指導の工夫を行った。
○数学では、「問題データベース」等を活用し、日々の授業で復習をした。
○国語では、家庭学習として漢字1ページを書かせ、授業で確認テストを行い、読み書きの定着を図った。
○英語では、家庭学習として単語を練習させ授業で単語テストを行い、基礎の定着を図った。
○「協同学習」の取り組みで、意見交換の場を設定できた。
○教職員間の共通理解や関係機関との連携により、規範意識が好転した。

課題

○数学、国語、英語ともに無回答が県平均より高い。
○知識・技能の定着が不十分な生徒が多いため、基本的・基礎的な内容に重点を置いた指導を継続していく必要がある。
○文章から読み取ることが苦手で、解答に結びつかない生徒が多い。
○「相手の話を最後まで聞き、考えを受け止め自分の考えを持つ」「自分の考えを説明したり、文章に書いたりする」を苦手としている。
○「休日に家庭学習を全くしていない」という割合が多い。
○成功体験や認められると感じる経験が少ないため、自己肯定感が低く、自分に自信がなく学習意欲も低い。
○自分で時間を決めて勉強や遊びを行うことや自主的に行動することを苦手としている。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
「岡山型学習指導のスタンダード「授業5」」の「理解確認」と「振り返り」の充実を図る。	年度末	全学年「授業の内容がわかる」の割合を90%以上	毎日の授業において「理解確認」と「振り返り」の時間の確保する。学期ごとに各教科で指導の工夫の研修を行い、月1回教師自身の授業の振り返りを行う。(振り返りシートの活用)	「授業の内容がわかる」の割合 1年生85.4% 2年生91.8% 3年生86.7%	B	「授業の内容がわかる」の割合 1年生88.8% 2年生85.6% 3年生87.0%	B	毎日の授業で「理解確認」を行うとともに、授業で自分の考えを書くなどの「振り返り」の時間を設ける。月1回教師自身の授業の振り返りを行う。(振り返りシートの活用)
「西中タイム」を基に「津山チャレンジテスト」を軸とした学習サイクルを整備し、数学の基礎学力の向上を図る。	年度末	全学年「津山チャレンジテストの内容を理解できている」の割合を70%以上	「西中タイム」などの時間を利用して数学の基礎的内容の定着を図る。「津山チャレンジテスト」で理解度を確認し、できていない問題については、授業や補充教室で学び直しを行い、「定期考査」で再確認をする。	「津山チャレンジテストの内容を理解できている」の割合 1年生80.8% 2年生85.9% 3年生84.4%	S	「津山チャレンジテストの内容を理解できている」の割合 1年生77.0% 2年生80.0% 3年生83.5%	S	西中タイム等の時間を活用し、津山チャレンジテストを中心に数学の問題の復習に取り組む。学期に1回、国語、理科・社会、英語を5日間練習し、「校内統一テスト」を実施する。※生徒会(学級代表)とタイアップし、全校一斉の取り組みとする。
「協同学習」を意図的に取り入れ、自分の考えを他人に説明したり表現する場面を増やす。	年度末	全学年「授業の中で話し合いの活動をよくしている」の割合を90%以上	各教科・道徳をはじめとしたあらゆる場面で、ペア学習やグループ学習を取り入れ、他人に説明し表現する機会を設定する。	「授業の中で話し合いの活動をよくしている」の割合 1年生82.2% 2年生83.0% 3年生85.9%	B	「授業の中で話し合いの活動をよくしている」の割合 1年生80.2% 2年生82.9% 3年生88.5%	B	教科会やOJTグループを利用し、同僚性を高めるとともに、効果的な課題設定や話し合いの仕方を研究する。※コの字形の座席配置の利用と授業内容と生徒の実態に合わせた座席配置の工夫を行う。
「問題データベース」などを活用し、既習事項の学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。	年度末	全学年「土日や休日に家庭学習を全くしない」の割合を10%以下	「西中タイム」や授業の中で練習問題として活用するだけでなく、休日の課題として活用し既習内容の定着を図る。(金曜日に週末プリントを配布し月曜日に朝テストを行うなど、定着度の確認を行う。)	「土日や休日に家庭学習を全くしない」の割合 1年生21.5% 2年生14.1% 3年生7.4%	C	「土日や休日に家庭学習を全くしない」の割合 1年生23.0% 2年生13.7% 3年生9.4%	B	学年団で全教科の宿題の把握と管理を行い、「データベース」の活用

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

○共通重点3項目「家庭学習(宿題)の100%提出をめざす」「チャイム同時スタート チャイム同時終了」「授業の中に学び合いを」により、学習習慣の向上を図る。
○共通重点2項目「ことばづかい」「きれいな教室」により、生活習慣の向上を図る。
○中学校区における「小中合同研修会」「ホームページ」の取り組みを行う。
○小中連携による「授業公開」「児童生徒の情報交換」「出前授業」「学習支援ボランティア」を行う。

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○「家庭学習の手引き」「家庭学習のスタンダード」を基に、学級懇談や個人懇談などで家庭学習を呼びかける。
○「ボランティアの取り組み」を家庭を巻き込んで行う。
○講演会で「SNSの取り扱いについて」の啓発を行う。